

スペシャルオリンピックス世界大会視察記(2)

ことについて書かせていただきました。

今回は、大会以外での交流や初めての海外で感じたことについてお伝えします。

イタリアまでは14時間の長時間のフライトでした。時差は7時間もありました。到着後、まず念願のピザを食べ、夜には牛肉のタルタルやパスタを楽しみました。

イタリアでは店員さんをお呼びし、手をあげるのではなく目で合図をするのがマ

ナーであることを知りました。滞在中は、スーパーでチーズやハム等を買ってアパートで料理をしたり、ジェラートを食べ歩いたりし、食文化を満喫しました。

また、文化的価値観の違いも印象的でした。イタリアではスーパーで道を譲ると「ありがとう(グラツエ)」と感謝を伝えられたり、落ちていた商品を拾うと「優しいね」と声をかけてもらえたりしました。

一方、日本ではまず「すみません」と言う場面が多く、日常的に褒め言葉をかけ合うことは少ないと感じました。感謝や称賛を自然に伝える文化が素敵だと思います。

さらに、台北、チェコ、ニュージランド、イラク、日本、スイス、オーストラリア、イタリア、ルクセンブルクの方々と交流できました。日本のファミリーからは「2024年2月の名寄での冬季ナショ

ナルゲームが良かった」と直接感想を聞けてうれしかったです。想像していた以上に各国の人とコミュニケーションをとることができ、日本から来たといったら盛り上がりすぎて、簡単な英語でもコミュニケーションをとれたことが非常に嬉しかったです。

どの選手団も気さくで、快く写真撮影に応じてくれたのも嬉しい思い出です。ただ、相手の言いた



いことを理解できない場面もあり、もっと英語が話せたらと感じました。

初の海外ということで、訪れたお店の店員さんやホテルのスタッフ、大会ボランティアの方にもサインや写真をお願いしましたが、皆さん快く応じてくれ、言語を超えた交流がで

きました。これらの体験は忘れられない思い出です。

この経験を活かし、今後も多くの方に活動を知っていただけるよう、様々な取り組みに励んでいきたいです。

社会福祉学科4年

兼田風和里

玉木美翔

前回の記事(2025年6月)では、スペシャルオリンピックス冬季世界大会で感じたことや学んだ